

乾癬の治療薬で心臓血管イベントリスクが低減

乾癬の患者では、慢性炎症の影響により冠動脈ハイリスクプラークの有病率と心臓血管イベントのリスクが高くなることが知られている。本研究では、乾癬の生物学的製剤での治療による冠動脈ハイリスクプラークへの影響について検討した。

対象となったのは、生物学的製剤による治療を受けていない乾癬患者 209 例で、試験開始時と生物学的製剤による治療の 1 年後に冠動脈 CT 血管造影法により脂質に富む壊死性コア(以下、LRNC=冠動脈ハイリスクプラークの特徴)の変化を調べ、局所クリーム塗布による治療と光線療法のみを受けた対照群と比較した。1 年後の LRNC の最大面積は、生物学的製剤投与群では試験開始時の 3.12mm²から 2.97mm²へ有意に縮小した(P=0.028)。一方、対照群では LRNC の面積が有意ではないものの、試験開始時の 3.12 mm²から 3.34 mm²に拡大した(P=0.033)。LRNC の変化量は、生物学的製剤投与群で-0.22 mm²であり、対照群の変化量+0.14 mm²に比べ有意であり(P=0.004)、心臓血管リスク因子と乾癬の重症度で調整後も有意であった(P=0.033)。

今回の結果から、乾癬の治療に用いた生物学的製剤により冠動脈ハイリスクプラークの構成が変わり、心臓血管リスクが低減することが示唆された。今後、さらに大規模で長期にわたる前向き研究での検証が必要である。

出典:Circulation. Cardiovascular Imaging. 2020; 13: e011199.